

アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

前項に関連するが、追試対象者を適正な数に抑えるため最終テストの難易度が下がり、S評価が多くなり過ぎている。小テスト関連以外の問題を増やすことで、最終テストの難易度を上げることも検討しなければならない。アンケートについては、おおむね良好な評価を得ていると感じる。ただ、授業の進行を配慮してか、あるいは学生自身の主体性の不足からか、授業中の質問があまり出なかったように思うので、質問が出やすい雰囲気醸成するよう努めていきたい。

「話し方は聞き取りやすい」、「説明はわかりやすい」の項目で「あまりそう思わない」と回答した学生がいたので、より分かりやすくなるように改善したい。

(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)の質問に対して『強くそう思う』が16.2%『ややそう思う』が59.5%であるのに対し、(学習目標が達成できた)の質問に対しては、『強くそう思う』が2.7%『ややそう思う』が21.6%で、多くの学生はあまり目標が達成できたとは思っていないようである。また、(授業で提示された課題を、自ら検索し考えた)の質問に対しては、『強くそう思う・ややそう思う』が18.9%、(授業の難易度)の質問に対して『難しい・難しすぎる』が83.8%であり、新しい知識は身についたが内容が難しく目標を十分達成するには至らなかった、と解釈できる。今後は、授業内容を厳選し、深い理解が得られるよう丁寧に講義するとともに、適宜課題を課し、自己学習を促すように工夫したい。

(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)の質問に対して『強くそう思う』が24.3%『ややそう思う』が64.9%であるのに対し、(学習目標が達成できた)の質問に対しては、『強くそう思う』が10.8%『ややそう思う』が40.5%で、目標が十分達成できたとは思っていない学生も半数近くいるようである。また、(授業で提示された課題を、自ら検索し考えた)の質問に対しては、『強くそう思う・ややそう思う』が32.4%、(授業の難易度)の質問に対して『難しい・難しすぎる』が54.1%であり、新しい知識は身についたが内容が難しく目標を十分達成するには至らなかった学生も半分くらいいる、と解釈できる。今後は、授業内容の説明を工夫するとともに、適宜課題を課し、自己学習を促すように工夫したい。

・校内の実習科目である救急処置に関しては、最新のガイドラインに準拠した授業になるように、常に新しい情報を収集して学生に教授するように留意したいと思います。また、「将来、養護教諭として適切な処置および保健指導ができる」ことを念頭に、技術の修得とともに児童生徒および教職員に対して保健指導ができるレベルを目標に設定したいと考えます。

・学外の実習科目である臨床実習Ⅱに関しては、外部の保健医療施設における臨地実習であり、実習施設の実習担当者との綿密な事前打ち合わせと事後報告をこれまで以上に実施したいと考えます。なお、学生の自由記述欄の記載にあった帰りのバスの乗車については、実習施設での乗車は一般の方に先に乗車していただき、ご迷惑はかけていませんでした。途中のバス停で一般の方が乗れなかった事があったかもしれませんが、その可能性を想定して学生を分乗させるかどうかは今後検討したいと思います。

問1①と②回答が74.2%なので、小学校教員になる学生に、幼稚園教育の風を送ることはできたと自負している。問2:同32.3%、問3:同35.5%、問4:同35.5%、・・・問13「授業の難易度」ちょうどいいが80.6%で、まあこれぐらいかなと思う。この自己評価(2)で記入したとおり、やや自宅学習時間が少ないは気にかかるが、卒論、教採を同時進行している4年生ということとを考慮すると、指導者としては今年何とか合格点かなと思います。来年も講義があれば、本年のように学生の状況をモニターしながら授業を進めていきたいと考えている。

大変意欲的で、思考の柔軟な学生が多く、私自身、授業が楽しかったです。

後期からの授業も、学生との双方向的な授業展開に努めたいと思います。

「この授業のための週あたりの学習時間」について、1時間未満から3時間以上と学生によって差がありました。

保育や実践、理論に対する学びへの意味をより明確にし、どの学生に対しても授業外での自身の自発的な学習が保障されるように後期からの授業は工夫していきたいです。

外部講師による集中講義であるため、教材・教具の使用に制限があります。しかし、インターネット等を活用して教材を準備する等の工夫・改善が可能であると考えます。

また、アンケート結果から、授業内容の復習・予習に充てる時間が不十分であると考えます。集中講義の開始前の予習を指示すること、反転授業型のデザインを考えていく必要があると思います。

授業内容が難しいというアンケート結果があるので補習などで対応できればいいが、授業数が多いので通常の授業期間での対応は不可能。補講期間や長期休暇中に対応するしかない。

・学生とのコミュニケーションがもっと取れるような工夫(メールでの質問等)を検討しようと思います。

おおむね好評価であったが、授業の難易度では、「ちょうどよい」が40%であったのに対し、「難しい」が50%であった。高校時代に統計に関する授業をしっかり受けていない学生には、やや難しい点があると思われる。このような学生が分かるような授業を試みたい。

自ら学習する、自ら考えるための授業はできていないと感じているが、そのためには内容を減らすか、逆に時間を十分かける必要がある。採用試験などを意識すると、伝えるべき内容が多いので、現状では、多少詰め込み的な授業であってもやむをえないと考えている。

「問11 教員とのコミュニケーションはうまくとれている」の部分について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。8回の集中講義であり、グループワークが大半なので教員と会話する場面は限られるが、できる限り1対1で話す機会を増やしたい。

いただいた結果を見る限り、肯定的な評価を付けてくださっているようなので大きく変えるところはないように思いましたが、よりわかりやすく学生さんがより興味をもってもらえるように努力したいと思います。特に、問6で約6割の学生が深め合ったと述べているが、約3割の学生がどちらともいえないと述べているので、もっと学生同士が考えを深める時間を増やしたいと思いました。

自身が意識して工夫した点については学生からの高評価を得ていましたが、参考文献の紹介や、学生自ら授業外で学べるような知的刺激を与えること等ができていなかったと思います。これらの点は改善が必要だと思われる。

本講義は、新たな知識を修得したり学問として学ぶことよりは、実際の活動を通じて受講生の意識の変化や、将来に対するものの考え方の変容を促す内容になっていたことに加え、2日間連続で実施したため、どうしても「さらに学びたい」「週当たりの学習時間」「自信での検索・参照」に関わる項目はあてはまらないという回答が多くみられました。この点はやむを得ない結果であったと考えています。受講者数が予定よりかなり多かったことで、取り組みづらさを感じた方もいたようなので、その点は今後検討していきたいと思います。また、自由記述に複数みられた「活動中に話すのはやめてほしい」という点については、配慮が足りなかったため、今後留意していきたいと思います。

2日間の集中講義ということで、週当たりの学習時間が少なかった点はやむを得なかったと考えています。その他、一回の学習内容がやや多かったという声もあった点については、ゲスト講師の先生ともさらに検討し、内容を精査していきたいと考えています。

講義の難易度が短いという回答や、一回の授業内容の量が多いという回答が一部見られたので、その点については今後再検討していきたいと思います。

当日の授業担当者を除いたフロアーの学生の参加意欲をいかに引き出すか、また授業後さらに考えを深める手立てを工夫したい。子どもの人権、発育発達の保障、学習権の保障等について考慮しながら執務ができる養護教諭養成が必要である。そのための工夫もしたい。

アンケートでは授業内容が難しかったという回答が多く見られました。統計自体の理解が難しいことに加え、演習で用いた人工データでは統計処理の結果を実際の研究と部分的にしか一致させることができないため十分な疑似体験にはならなかったことや、研究の内容についての理解が不十分なまま統計処理を行ったことなども影響していると思われるので、改善策を検討したいと思います。

所属大学ではマイクを使用することが常だが、マイクなしでも聞き取りが十分できるよう声の大きさの改善を心掛ける。「養護教諭論と何も変わらない」との自由記述には驚いたが、重なる部分があるのは当然でもあり重要なところと考える。しかし、授業担当者間で意見交換をし、内容を検討していくことを心掛ける。

アンケートの結果から、「内容の興味深さ」や「講義のわかりやすさ」については、おおむね高評価であった。一方で、問3の「自分で調べた」、問11「教員とのコミュニケーション」については相対的に評価が低かった。講義の構成として、学生にとってやや受け身のものであったかもしれない。今後は、「リアクションペーパー」や「グループワーク」などを取り入れ、学生の積極的な授業へのかかわりを増やしていくことを考えたい。

改善したい点としては、本講座受講者に対し、野外教育のリーダー資格を付与することを検討している。モチベーションアップ及びキャリアアップのサポートになるのではないかと考えている。
本講座は、学齢期の児童生徒を対象とする野外教育の実践を提供しているが、講義内容は国立青少年教育振興機構などで構成する全国体験活動指導者認定委員会が定める「自然体験活動指導者（NEALリーダー）」の養成カリキュラムの条件を満たしており、担当教員は当該養成カリキュラムの公認トレーナーである。したがって本講座終了時に認定試験を実施することでNEALリーダー資格の取得は可能となる。今後、学生たちのニーズをはかりながら結論を出していきたい。

- 1 授業内容の目的や内容の説明にもっと丁寧に、時間をかける。分かりやすい話し方をする。
- 2 提供した資料に学生が興味関心を持ち、学びを発展することを示唆できる資料を作成する。